

セ ン サ ー

1999年 1月号 第32号

東京温度検出端工業会 会報

年 頭 雑 感

会 長 荻 野 紘 一

会員の皆様、明けましておめでとうございます。足掛け8年にも及ぶ所謂バブル崩壊後の平成不況も、昨年は特にリストラや企業倒産の嵐が吹き荒れた一年となりました。

金融関係では、日本版ビッグバンが本格始動し、金融機関は危機感から一斉に業種や系列を超えた提携に進みました。又日銀、大蔵の接待汚職は金融システム不安を益々助長することになりました。本年1月1日には欧州連合（EU）の単一通貨「ユーロ」が仏、独など11ヶ国に導入され、ドルと並ぶ世界の基軸通貨になると見られております。

こうした変化の中、日本に世界市場で闘える強い金融機関が生れてくる事が望まれるところです。金融システムの安定が日本経済再生には必要不可欠と思われる故です。

又昨年は石油、自動車、通信やエレクトロニクスなどの分野で世界的規模での合併や提携が行われ、21世紀へ向けたそれら業界の再構築が進み、変化の始まりが本格化しました。名門、老舗といった国内大手企業も倒産に追込まれるなど総じて暗い話題ばかりといった感があり、私達の業界も然りでありました。一方明るいニュースでは昨7月の技術試験衛星（きく7号）「おりひめ、ひこぼし」の話題や10月の女性宇宙飛行士、向井千秋さんの活躍、更には12月の世界16ヶ国が参加する宇宙ステーションの話題等がありましたし、消費不況の中、自動車の「キューブ」や、パソコンの「iMac」家電の「遠心力洗濯機」などのヒット商品も生まれました。スポーツ界でも昨2月の長野冬季オリンピックでの感動的シーンや38年振りという横浜ベイスターズの優勝などがありました。

日本経済再生元年ともいえる1999年は従来の財政再建路線より、10兆円に迫ろうという減税や30兆円にも達する国債発行などによる積極財政に転じようとしており、景気刺激にどの様な効果があるか不明ですが、半導体市況が底入れ局面に入り明るさが

見えたり、電気エネルギー供給の主役である原子力発電がCO₂削減の切り札として軽水炉でのプルトニウム利用や、私達にも直接関心のあった高速増殖炉の早期実用化に向けた動き、更には環境関連での廃家電、廃自動車に向けての廃棄物処理を含む「リサイクル」など注目しておくべき事項も多くあると思われます。

私達も会員皆様の自助努力により「朝の来ない夜はない」事を信じ、今年のエトの「己卯」の卯は十二支の「兎」に当はまり、行動は敏捷活発、繁殖力大という動物で字の通りとすれば、明るく勢いのある良い年となって欲しいものであります。

私は今ふとした事から旧東海道を戸塚宿から歩き始め、昨年中に約1年半かけて豊橋（吉田宿）に着きました。所謂東海道五十三次の始まりは、慶長6年（1601）に徳川家康によって伝馬令がしかれ、街道の整備が進められた事によるもので、400年の歳月を経てはいるものの各地には昔日の面影が多く残されておりますと同時に特に静岡県などでは、21世紀ルネッサンス事業の一環として街道や史跡、文化財等の整備、保存活動が行われています。今の会社経営の多難な時期にこんな事を行っている場合ではないかも知れませんが、それらの歴史や伝統文化或は人々の生活の営みに触れながら、新しい発見を探し、世間や自分を見つめ直す機会としたいと思っています。私と同様街道を旅する人が意外と多いのに驚いています。やはり夫々の価値感や目的を持ちながら人生の意義を見出そうとしているのでしょう。心にカビを生やさない為にも……。

今年も日本橋より戸塚宿迄を補間しつつ、機会を作りながら一步でも京都の三条大橋へ近づき度と念願しております。

以上

会の動き

- ◎平成10年2月6日 理事会
「温度計実務講座」の実施細目を決定。6回に分けて行う。場所は大田区産業プラザ。
- ◎平成10年2月6日 新春懇親会
巣鴨「田村」にて。参加者 30名。
- ◎平成10年3月5日 第1回「温度計実務講座」 参加者 49名。
温度計の基礎、講師 小川実吉氏。
- ◎平成10年4月22日 理事会
総会に提案する、平成9年度事業報告、会計報告及び平成10年度事業計画案を審議、承認。
- ◎平成10年5月14日 第37回「けんたん会」
習志野カントリークラブにおいて。参加者 11名。
優勝者は大手金属㈱の加藤 誠氏。グロス89、ネット78。
参加者全員の平均スコア、グロス 107.4。
- ◎平成10年5月15日 第2回「温度計実務講座」 参加者 38名。
熱電対と補償導線、講師 小川実吉氏。
補償導線について会員の二宮電線工業㈱に話していただいた。
- ◎平成10年5月29日 定時総会
平成9年度事業報告、会計報告及び平成10年度事業計画について審議、承認された。
通産省計量行政室の担当者に御出席いただき、最近の景気動向についてお話しをいただいた。
- ◎平成10年5月 業態調査
通産省計量行政室の依頼により、当工業会の業態についてアンケート調査を行い、結果をとりまとめて報告書を提出した。
- ◎平成10年6月24日 第36回技術懇談会
都立産業技術研究所において。参加者 25名。
赤外線透過ファイバーを用いた放射温度計測について。都産技 林 国洋氏。
Pd点の共同実験結果について。石福金属興業㈱ 宮下誠一氏。
温度関連の認定事業者への取り組みについて。都産技 尾出 順氏。
- ◎平成10年7月4日 理事会
秋以後の行事について。担当理事の選任とおよその日程について審議。
理事会のなかに定款の改正案をまとめる小委員会を作ることにし、6社の理事を選任した。
- ◎平成10年7月10日 第3回「温度計実務講座」 参加者 41名。
測温抵抗体について。講師 小川実吉氏。
測温抵抗体素子の歴史について。林電工㈱。

- ◎平成10年9月3日 理事会
定款小委員会より、改正案を検討するにあたり、会員の意向を伺うためにアンケート調査を行いたいとの提案があり、承認した。
その他、行事の日程、内容について討議。
- ◎平成10年9月18日 第4回「温度計実務講座」参加者 40名。
保護管及び温度測定の実際。講師 小川実吉氏。
セラミック及び金属保護管について。(株)ニッカトー。
- ◎平成10年11月10日 第38回「けんたん会」
習志野カントリークラブにおいて。参加者 10名。
優勝者 ジョンソン・マツセイ・ジャパン(株) 尾沼 涼氏。グロス82. ネット72。参加者の平均スコア、グロス 104.3。
- ◎平成10年11月20日 第37回技術懇談会
都立産業技術研究所において。参加者 25名。
金属保護管の選定方法について。(株)岡崎製作所 風岡 学氏。
熱電対による温度計測の研究動向について。都産技 尾出 順氏。
- ◎平成10年12月3日 理事会
アンケート調査の内容について承認。
新春懇親会を2月5日(金)「万世」で行うことを決定。
「温度計実務講座」修了証は参加4回以上の人に出すことに決定。
- ◎平成10年12月4日 第5回「温度計実務講座」参加者 33名。
その他の温度計。講師 小川実吉氏。
- ◎平成10年12月10日 工場見学会
(株)山武 藤沢工場殿、富士写真フイルム(株) 足柄工場殿、参加者 27名。

平成10年12月10日 工場見学会 報告

デグサジャパン株式会社 川 筋 貴 弘

山武と富士写真フィルムというそれぞれの業界大手2社の工場を見学できるということで、今回の工場見学会は期待できるものであったに違いありません。

今回の工場見学会では午前中、(株)山武の藤沢工場殿を訪問しました。そこではまず、制御機器業界で日本初のISO14001認証の取得に至る同社の経験が、登録内部監査員の方により紹介されました。この研修会ではISO9001・14001について、認証を取得する側の視点で、その目的や期待される効果から、実際の準備・認証取得まで、基本から分かりやすく説明されました。また、その後の工場見学では、工場内が大変整然としていて、効果的な人員配置や動線にまで工夫がなされ、省力化・合理化の実際について学ぶことができました。この他、ロビーにあるショールームでは、同社で製造されている様々な製品を見学し、その技術の高さ、製品の幅の広さを理解することができました。

午後の訪問先、(株)富士写真フィルム・足柄工場殿は同社の発祥の地であるそうです。ここではまず、映画により、同社の製品、写真フィルムの歴史や構造についての紹介を受けました。

次に、あの有名な“写ルンです”の循環生産システムを見学しました。これは設計から生産、リサイクル・リユースまでの一貫したシステムで、複雑な工程を目をみはるようなスピードで使用後の“写ルンです”が分解・洗浄・組立・検査されていました。

また、リサイクルそしてリユースの実際問題として、新しく製品を製造し市場へ製品を出荷することよりも、回収して様々な工程を経て再び市場へ製品を送り出すことのほうが、コスト面で不利なものにもかかわらず、地球環境のことを最優先に考えて、設計時のリユース・リサイクル適性評価を織り込むなど、資源の再利用に真剣に取り組んでいることが紹介されました。

そして最後に見学したのは、錦鯉遊園という、同工場の廃水処理設備で浄化された水を利用した池です。同工場ではフィルム原料の化学薬品を多く使用しているため、洗浄用に多くの水を必要とするそうですが、その廃水はすべて完全に浄化してから、2万匹の鯉が飼育されているこの池を経て放流されるそうです。これらの環境影響への配慮からも、ISO14001認証取得についての理解を深めることができたと思います。

今回の工場見学会を通して、これら2社の高い技術と合理化・省力化だけではなく、品質管理・購入者保護(P.L法)の他に、ISO14001認証を通してこれからのテーマである、地球環境への配慮について考えることができました。そういった意味でも今回の見学会は大変有意義なものであったと思います。

最後になりましたが、お仕事でお邪魔したにもかかわらず、親切に案内や説明をして下さった工場関係者の皆様と、知識を身につける貴重な機会を提供して下さい下さった幹事様に心からお礼を申し上げます。

電気計測器 生産

(金額：百万円，前年比：前年同期比増減率%)

(出所：通産省生産動態統計)

生産	工業用計測制御機器																			
	P/A用計測 制御機器		発信器			圧力計			液位計			流量計			差圧計		その他の発信器			
	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	金額	前年比	
97(H9)暦年			498,499	10,487	4.4	79,397	10,542	-13.4	32,106	7,075	9.3	66,842	17,736	-0.3	70,311	12,168	2.0	12,838	-9.7	
97(H9)年度			488,049	10,156	-1.9	71,859	9,557	-24.2	31,791	6,894	3.2	62,960	17,136	-6.7	73,575	12,174	-0.3	12,571	-10.1	
97/7~9			115,305	2,655	2.5	17,530	2,449	-24.3	8,116	1,738	17.6	18,250	4,184	-4.7	20,590	3,357	1.3	3,118	-12.5	
97/10~12			130,455	2,438	-6.9	17,506	2,115	-29.3	8,291	1,659	-5.7	14,681	3,888	-4.4	15,627	2,652	-6.6	2,954	-13.5	
98/1~3			68,779	115,177	2,384	-12.2	18,110	2,496	-28.3	8,918	2,029	-8.2	15,727	5,544	-9.8	20,828	3,297	0.2	3,223	-7.7
98/4~6			47,935	92,191	2,142	-20.0	14,223	2,190	-12.2	5,452	1,306	-11.0	11,178	3,111	-11.6	13,853	2,374	-17.2	2,385	-27.2
98/6			16,256	23,696	678	-25.6	5,581	869	14.2	2,170	534	20.5	4,058	1,092	-4.9	5,598	921	-12.8	681	-41.8
98/7			15,229	24,690	579	-34.1	6,386	803	5.7	2,255	508	-1.6	4,694	1,230	12.4	6,213	925	-9.7	616	-31.7
98/8			14,962	24,013	576	-35.9	5,257	747	14.9	2,152	509	-6.0	4,251	1,085	-8.7	5,120	896	-7.3	621	-38.1
98/1~98/8			146,905	256,071	5,681	-20.8	43,976	6,238	-15.6	18,777	4,362	-6.3	35,750	10,970	-8.2	46,014	7,492	-8.1	6,845	-21.1
98/4~98/8			79,126	140,894	3,297	-26.0	25,866	3,740	-4.2	9,869	2,323	-6.4	20,023	5,426	-6.5	25,186	4,195	-13.7	3,622	-30.1

生産	工業用計測制御機器																			
	指示記録計		調節計			補助機器			操作器			プロセス用分析計			プロセス監視制御システム					
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比		
97(H9)暦年	194,497	13,998	-10.7	462,173	11,951	-13.8	196,280	7,695	-9.1	21,155	6,487	-20.2	22,107	11,027	5.7	97,142	-10.3	714	21,358	-30.0
97(H9)年度	219,912	13,368	-13.8	429,823	10,985	-25.1	147,749	7,171	-18.1	18,790	5,989	-24.3	23,000	11,788	10.4	98,420	-1.4	1,103	21,698	-6.4
97/7~9	51,411	3,477	-13.6	106,706	2,772	-23.6	35,032	1,823	-10.5	4,671	1,448	-31.7	5,800	3,106	17.3	29,149	13.9	204	4,610	52.6
97/10~12	64,018	3,338	-7.6	109,221	2,616	-29.4	35,949	1,635	-26.7	4,857	1,606	-19.7	5,609	2,341	8.4	20,476	-9.1	127	4,853	-24.7
98/1~3	62,937	3,500	-15.3	93,778	2,865	-25.2	34,657	2,071	-20.2	4,630	1,465	-25.4	7,504	4,374	21.1	26,778	5.0	537	4,465	8.3
98/4~6	49,158	2,822	-7.6	80,870	2,025	-25.8	25,700	1,460	-11.1	4,291	1,518	3.3	3,732	2,005	1.9	20,086	-8.8	201	7,487	-3.8
98/6	15,435	936	-14.0	26,484	644	-21.5	10,441	504	-2.1	1,410	470	-12.1	1,376	639	-19.1	6,739	-9.0	32	2,062	37.5
98/7	13,871	879	-17.8	26,496	648	-23.6	11,323	613	23.6	1,276	373	-19.8	1,468	752	7.3	6,126	-22.3	64	1,068	-58.1
98/8	16,616	861	-14.4	23,193	608	-22.9	9,996	504	-2.7	1,140	313	-28.4	1,665	929	17.7	6,146	-20.6	63	1,262	-18.6
98/1~98/8	142,581	8,062	-12.9	224,337	6,147	-25.0	81,606	4,648	-11.5	11,337	3,669	-15.4	14,369	8,060	14.0	59,136	-6.3	855	14,262	-10.7
98/4~98/8	79,644	4,562	-11.0	130,559	3,282	-24.9	46,949	2,577	-3.0	6,707	2,204	-7.1	6,865	3,686	6.6	32,358	-14.0	318	9,807	-1.7

編集後記

現在、日本経済は戦後最悪の不況におちいつている、といわれていますが、その通りだと思いません。最近の売り上げの落ち込みの大きさは、かつて経験したことの無いものになっている、というのが実状ではないでしょうか。世紀末という歴史の区切りにせきたてられているかのように、いろいろな出来事が起き、その振幅も大きいように思えてなりません。巨大化した資金が国境を越えて動き、時には暴力的とさえ思える力でもって、一国の経済基盤さえ吹き飛ばしてしまいます。

アジア、ロシアが破綻し、今、ブラジルを中心とした南米が大きく揺らいでいます。これが、いまは好調な米国を揺さぶるのではないかと心配されています。日本はバブルの精算がまだ終らず、今年もまた大きな倒産等が起きるのでしょうか。あまりにも大きな変動にただ呆然とするばかりです。

しかし、これも経済の現実だとすれば、我々はこの中で生きてゆかなければならないというのも現実です。誰か何とかしてくれ、といってもしょうがないでしょうし、あきらめてしまったらこれも終りです。

いずれまた右肩あがりの時代が来るだろうと考えるのも楽観的に過ぎるでしょう。このきびしい時代、生き残りをかけて、個人、会社、そして当工業会も何をしなければならぬのか、何ができるのか、考え、実行してゆくしかありません。

いつの時代も同じなのかも知れませんが、今年はお一層必要なように思います。

1999年1月15日

(秀城・記)

平成11年1月発行 No.32

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都文京区本駒込6-5-5 (林電工株式会社)

電話 3945-3151